

令和4年度あだち新製品開発講座 スタートアップのための足立ものづくり アクセラレータープログラム 募集要領

新たな製品開発や事業開発に挑戦してみませんか！
スタートアップ事業者の参加を募集します！

本事業では、ハードウェアをメインにした課題解決型の新しい製品開発や事業開発に取り組むスタートアップ事業者に向けた支援を行います。個別で実施する「伴走型支援」と参加事業者全体への「ビジネス開発講座」で、事業戦略から製品開発、マーケティング、資金調達まで総合的に学び、実践するプログラムです。

- ◆ 対 象 下記のいずれかの要件に該当する事業者
 - ・ 中小企業基本法第2条第1項に定める中小企業で、区内に活動実態のある製造業事業者
 - ・ 中小企業基本法第2条第3項に定める中小企業で、区内製造業事業者との協働を希望する事業者
- ◆ 実施期間 令和4年8月上旬から令和5年3月末まで
- ◆ メンター TOKYO 町工場 HUB
- ◆ 募集数 3社
- ◆ 募集期間 令和4年7月1日（金）から7月22日（金）まで
別紙「申請書」を郵送またはFAX、窓口にてご提出ください
「申請書」をもとに参加事業者を決定します
- ◆ 参加料 無料（但し、製品開発費用等の必要経費は全て自己負担）

※ 講師や講座内容等については次ページ以降をご覧ください

アクセラレーター
…伴走型事業開発支援のこと

メンター
…指導者や相談者のこと

問い合わせ先
足立区 産業経済部 産業振興課 ものづくり振興係
〒120-8510
足立区中央本町一丁目17番1号
足立区役所 南館4F
TEL：03-3880-5869 FAX：03-3880-5605



プログラム概要

「足立ものづくりアクセラレータープログラム」（以下、A-MAP と呼ぶ）は、課題解決型の製品開発やハードウェアを利用した事業開発に取り組むスタートアップに向けた伴走型の支援を行うプログラムです。

1 背景

令和に生きる私たちは、少子高齢化や感染症の脅威、気候変動やエネルギー資源の問題など、多種多様な課題を抱えています。社会的な弱者や障がい者への支援、子どもたちの学びの機会や質の向上などにも、社会の関心が高まっています。

また、暮らし方や働き方の変化に伴い、生活の様々な分野で新しいニーズが生まれています。ライフスタイルに合わせた製品やサービスが求められ、大量生産品に満足せず、個々のニーズにカスタマイズされたものも好まれる傾向にあります。

このような諸々の社会課題や変化するニーズに対応する担い手として、今、スタートアップに注目が集まっています。特定の課題や機会に着目して、革新的な技術やアイデアを生み出し、新しい解決（ソリューション）を提供するスタートアップは、今後、ますます重要性を増すでしょう。

一方で、スタートアップとは未知の事業に挑むものです。そのため、リスクが高く、常に不足する資源（人材、時間、資金など）と向き合いながら、成長の各ステージを段階的に登っていく必要があります。特に、ハードウェアを伴う製品やサービスの開発は、一般にハードルが高いものです。機会を捉え、リスクをコントロールするための正確な判断が求められます。

A-MAP は、ハードウェアに取り組むスタートアップの事業開発をサポートする支援プログラムです。構想段階からアーリーステージ（製品化）までのスタートアップを対象に経営上の様々な局面で側面支援します。本格的な製品化、量産へ向けて事業を成長させることがゴールです。

2 A-MAP で想定している課題解決型スタートアップ

A-MAP における課題解決型スタートアップとは、人や社会の切実な課題やニーズに対して、具体的なソリューション（課題解決）を提供する製品・サービスの開発・事業化に取り組んでいる事業者のことです。

＜課題解決に向けた製品例＞

- ・障がい者向けにデザインされた服や雑貨：インクルーシブデザイン
- ・女性の健康課題を解決するテクノロジー・製品・サービス：フェムテック
- ・農業の生産性向上を目指した装置・機械：アグリテック
- ・燃費効率を格段に上げた電動バイク
- ・高齢者に優しい料理キット（キッチンウェア）

A-MAP では、多様な課題解決型スタートアップの形態を想定しています。

例えば、特定の課題解決に直接取り組んでいる企業・団体・個人、そのような企業等と協働して取り組む工場、新しい機構や素材を研究している大学や研究所、そこから発生するベンチャーなど。

課題に対して既に深い理解がある場合は、初期段階での調査や仮説検証時の段取りはスムーズに進む可能性があります。一方、部外者が新鮮な目で課題を見ることで、今まで見過ごされてきた問題の本質や新しい解決の可能性が見えてくることもあります。

1社で単独開発するものもあれば、複数の関係者がコンソーシアムやパートナーシップを組んで開発を行う場合もあります。区内で全てが完結することは要件ではなく、区内外との協働を必要とする場合もあると想定しています。

いずれにせよ、課題や潜在的な顧客の痛みやニーズと真摯に向き合い、仮説を構築し、技術的あるいは事業的な仮説検証を繰り返しながら、製品開発・事業開発を進める必要があります。

3 対象となるスタートアップのステージ

A-MAP が支援対象とするスタートアップは、以下のプレシーズ、シーズ、アーリーの各ステージにある企業または事業です。

ステージ名	事業開発の状況	目標
プレシーズ	解決したい課題はあるが、顧客のニーズの強さや程度は検証できていない。ソリューションや製品アイデアがいくつかあるが、具体化していない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期の仮説構築（課題の特定、ソリューション、製品アイデア） ● 仮説検証のための簡易プロトタイプ製作準備
シーズ	初期の仮説が固まり、顧客反応や技術的課題に関する初期段階の仮説検証を行う段階にある。簡易なプロトタイプ作りに取り掛かれる段階。	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期の仮説検証を複数回行い、結果を分析、学習を深める ● 必要に応じて初期仮説を修正 ● MVP(*1)開発準備
アーリー	MVPの開発に取り組む段階にある。見込み客へ向けてテストを実施し、検証する準備が進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ● MVPの製作 ● MVPによるニッチ市場でのテスト ● テスト結果の検証

(*1) MVP：実用最小限の製品

最小限の労力と時間で開発できるもの。実用最小限なので、必要な全てが揃っている必要はない。

4 提供する支援の内容

A-MAP では、プログラム参加事業者に対し、以下の支援を提供します。

- メンターによる経営・技術面の個別コーチング（伴走型）
- ビジネス開発講座による新しい知見の獲得、体験型の学習機会の提供
- 足立区が持つ多様なネットワークへのアクセスサポート
- メンターの持つ豊富なネットワークへのアクセスサポート

A-MAP では、具体的な事業化を実践的に側面支援することを主眼におきます。座学的なセミナーやワークショップのような学習のための講座は、A-MAP においては補足的な位置付けとなります。

<想定する支援例>

【支援先のイメージ】

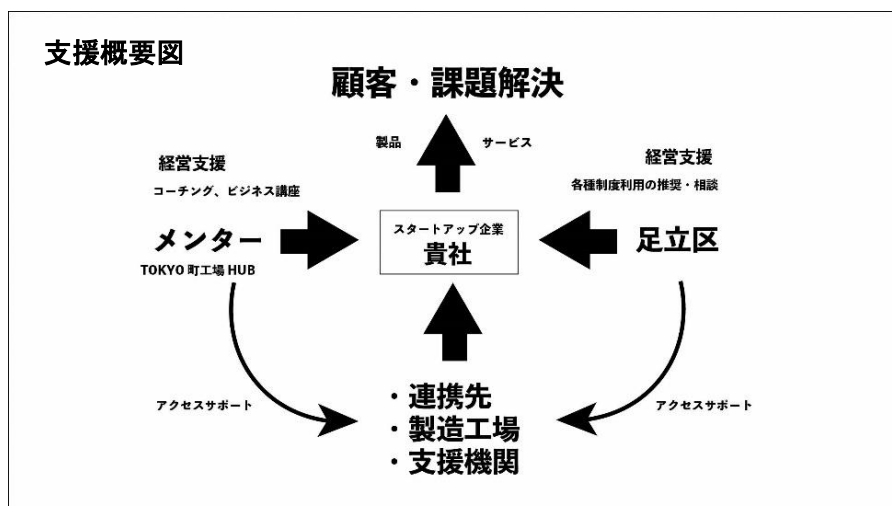
フェムテックの新製品を開発中のスタートアップ。シーズステージに入っており、既に仮説構築、簡易なプロトタイプは作ったが、MVP を製作するための製造パートナーや仮説検証を実施できるユーザーに近い協働先探しが課題。また次のステージに向けた資金調達も含め、本格事業化の準備を進めたい。

【支援内容】

適正な製造パートナー探し、MVP で想定している機能や仕様などの要件固め（製造パートナーとの調整）、予算配分とリスク管理、仮説検証に向けた協力先の選定・依頼、テストマーケティング、資金調達などの事業活動に対して側面サポート。

「側面支援」とは、活動の主体はあくまでも参加事業者であり、直接の支援（例えば、企画書製作、営業活動、その他代行での行為を行うこと）は行わないということです。メンターの主たる役割は、経営のコーチングになります。

また、区からの補助金や助成金などの資金的な支援は一切含まれておりません。必要に応じて、区の他の支援策を併せて利用することを推奨します。講座参加のための交通費や参考文献の購入費、事業・製品開発等にかかる費用や経費は、全て自己負担となります。



5 具体的支援内容

A-MAPにおける支援は、(1) 各参加事業者にカスタマイズした伴走型支援と(2) 参加メンバー全員を対象にしたビジネス講座を組み合わせたものになります。

(1) 伴走型支援

<コーチング>

スタートアップは、不確定かつ不安定な事業環境において、様々な重要な経営判断をタイムリーに行う必要があります。常に不足する経営資源（人材、時間、資金等）をいかに有効に使うか、リスクを評価しながら決定しなければなりません。

A-MAPでは、経験豊富なメンターが各参加事業者の事業ステージに応じた経営課題に対し、継続的なコーチングを行います。最終的な判断は各経営者が下す必要がありますが、検討する上での新しい視点を提供したり、方法論についてのヒントを与えたり、外部リソースの活用法やリスク評価についてアドバイスを行うなど、参加事業者に寄り添い、伴走し支援します。

リードメンター	TOKYO 町工場 HUB 代表 古川 拓
支援内容	面談またはオンラインでのコーチング
回数	全 24 回（各回 1 時間、週 1 回の頻度、6 ヶ月間） 上記に加え、2 回（各 2 時間）の事前調査・打ち合わせ

【コーチング内容とゴール】

基本的には、参加事業者が自立的かつモチベーションを持って事業を推進することが前提です。メンターは、側面から支援することに徹し、事業開発そのものをリードすることはありません。また、ルールは用意しません。課題を与えながら推進状況を管理するという方法も取りません。状況に応じた問いかけや対話を中心にし、一緒に考えることはあっても、プログラム参加事業者自身が個々の経営判断を行い、自ら道を切り開くことをゴールとします。

<ネットワークへのアクセス支援>

調査や仮説検証等の際に、足立区およびメンターのネットワークにある様々な企業や団体へのアクセスをサポートします。実際の受入は、それぞれの先が諸条件を検討して可否を判断するので保証はできませんが、単独でアプローチするよりは、成功率が高いと考えられます。

紹介先等で生じる費用やコストは全て参加事業者の自己負担となります。

(2) ビジネス開発講座

国内外で活躍するプロダクトデザイナーなどを講師に迎え、社会のトレンドや協働のあり方等を学ぶ。座学に加えて視察など外に向けて働きかける具体的な取り組みを実施します。

【講座テーマ (案)】 → 参加事業者の構成を見て最終確定予定

講座	テーマ
第1回	オリエンテーション 仮説構築と仮説検証
第2回	アイデアをカタチにする(1) プロダクトデザインの潮流と取り組み
第3回	アイデアをカタチにする(2) 内外のリソースを知る、活かす
第4回	視察+ワークショップⅠ 先進的な企業、取り組みを視察
第5回	ファイナンス ブートストラップ(*2)から資本調達まで
第6回	視察+ワークショップⅡ トレンドを知る、見る、理解する
第7回	参加事業者プレゼンテーション・講評

(*2) ブートストラップ：内部の資本のみで事業を営む手法

6 メンター、講師（予定）

リードメンター：TOKYO 町工場 HUB 代表 古川 拓



京都大学法学部卒。大学卒業後、銀行に入学し、日米で通算 15 年間、主に大企業の法人取引に従事した。2004 年に独立し、創造力ある人材や優れた技術を生かすことで社会課題解決に資する事業構築、ソーシャルデザイン・プロデュースの道を進む。自ら複数のスタートアップを立ち上げ、同時にベンチャーファンドの取締役、財団理事等を兼任し、国内外で活動を展開してきた。2017 年より TOKYO 町工場 HUB の事業を創業、現在に至る。2009 年より 2020 年まで 11 年間に渡り、東京大学大学院新領域創成学科の非常勤講師として同大学院の環境マネジメントプログラム「持続可能な社会のためのビジネスとファイナンス（全 10 回）」を教える（留学生対象の英語講座）。

ゲスト講師：ARVenture Studio Limited 創業者/ディレクター
アンディ Y.W. リー氏



ロンドン芸術大学（Central Saint Martins School of Art and Design）で学び、香港理工大学でデザイン修士を取得。プロダクトデザイン・開発の第一線で 25 年以上にわたり活躍し続けている。競技用の水着から電動自動車まで幅広い分野で製品デザイン・開発に関わる。顧客には Audiovox、バンダイ、Phillips、Speedo、Timex など、世界の著名企業が並ぶ。ロンドンと香港に拠点を持つプロダクトデザイン事務所 ARVenture Studio Limited を設立し、現在に至る。ロンドン在住。

ゲスト講師：株式会社小川製作所 取締役 小川真由氏



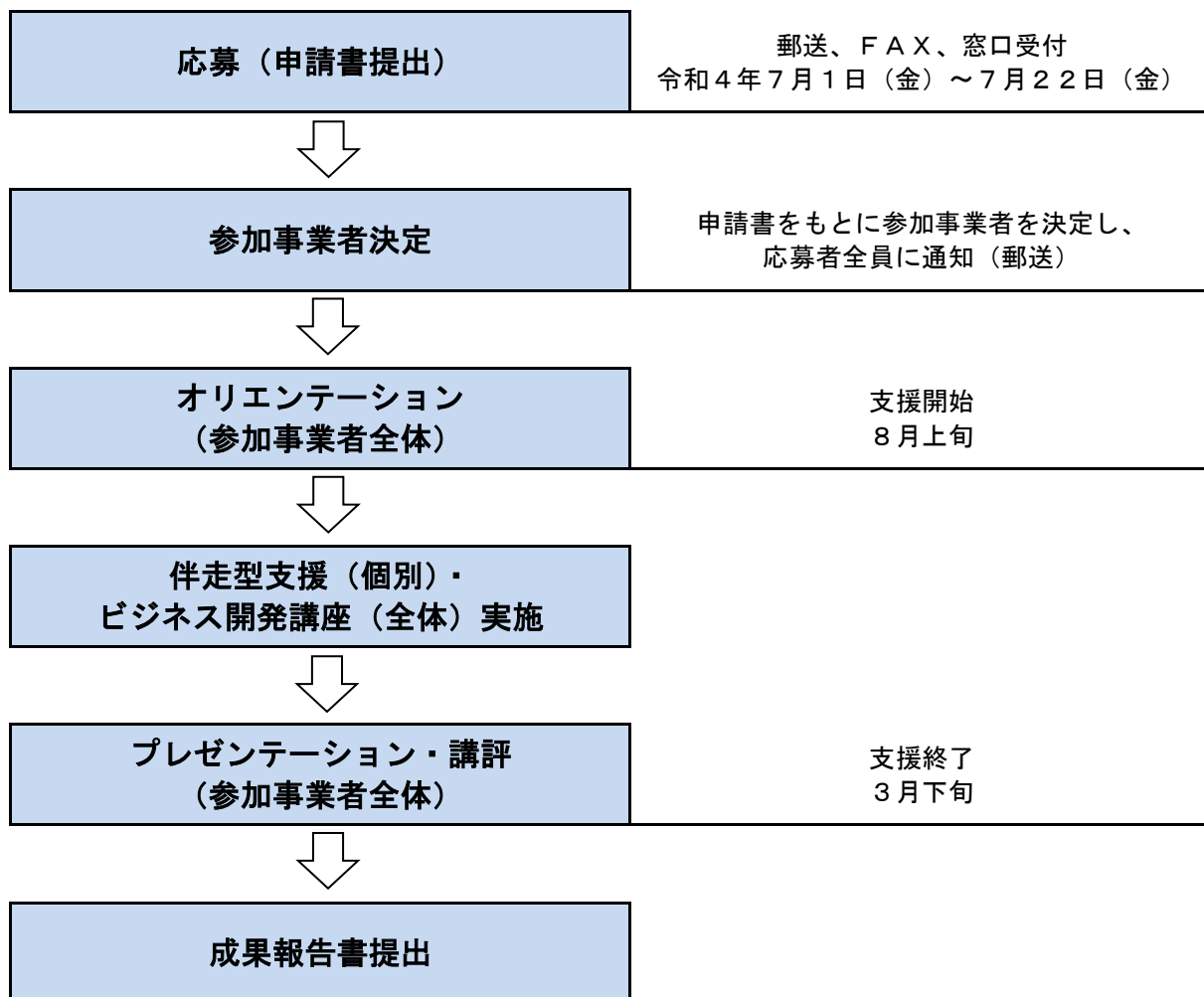
慶應義塾大学工学部卒業（義塾賞受賞）、同大学院理工学研究科修士課程（システム工学、航空宇宙工学）修了後、富士重工業株式会社（現 株式会社 SUBARU）航空宇宙カンパニーにて新規航空機の開発業務に従事。精密機械加工メーカーにて修業後、家業である小川製作所に合流し、医療器具や食品加工機械分野での溶接・バフ研 磨などの職人技術による部品製作、5 軸加工などを駆使した航空機や半導体製造装置など先端分野の精密部品の供給、3D CAD を活用した開発支援事業等を展開。日本の経済統計についてブログや Twitter での情報発

ゲスト講師：Tokyo Keyboard 代表 アルビン チャン
(Alvin Cheung) 氏



カリフォルニア美術大学サンフランシスコ校でデザイン戦略の修士（MBA）を取得。シリコンバレーで10年間デザイナーの仕事をした。日本に移住しTEDxTokyoの立ち上げに関わったのち、ソーシャルイノベーションのコンサルタントとして活躍。Microsoft、Google、Bayer、サントリー、日産などの案件を手掛けてきた。東京の職人技術とものづくりを再定義する Made in Tokyo の電化製品ブランド「Tokyo Keyboard」を立ち上げる。また日本初のコーヒーサブスクサービスを展開する ABC Coffee Club の創業メンバーでもある。

応募方法・支援の流れ



提出先および申請受付期間

応募方法：別紙1「申請書」に必要事項をご記入の上、郵送・FAX・窓口にて提出

提出先：〒120-8510

足立区中央本町1-17-1 足立区役所南館4階
足立区 産業経済部 産業振興課 ものづくり振興係

FAX：03（3880）5605

（土日祝日を除く 午前8時30分～午後5時15分まで）

受付期間：令和4年7月1日（金）～7月22日（金）**必着**

【注意事項】

- ・必要に応じて参考資料の添付をお願いします。
- ・受け取った申請書・資料等の守秘義務は厳守いたします。
- ・資料の返却には応じられません（当方で適切に処分します）のでご了承ください。